

令和3年度 事業報告書

事業の状況

国内で新型コロナウイルス感染症が初めて確認されてから2年を超えているが、ウイルスは変異して性質を変え、今も感染拡大の波に襲われている状況にある。

弘前大学医学部附属病院においては、入院患者への面会禁止などの様々な制約が続いている。さらに、令和3年5月からは、土日祝の大学病院正面玄関における立入制限強化（終日施錠）等の措置が取られている。これらの影響により、弘仁会が大学病院内で運営しているローソン、食堂、ドトールコーヒーショップの利用者がコロナ禍以前と比べ減少したことから、食堂においては、昨年度から日曜日の休業や営業時間の短縮を行っている。ドトールコーヒーショップにおいては、昨年度から営業時間を短縮していたが、令和3年8月からは土曜日休業とし、日曜日の営業時間をさらに短縮した。

本年度の決算について、経常収益では、ローソンにおいては、昨年度品薄状態が続いたマスクや消毒液等を、当店の取引業者との交渉により優先的に納入量を確保し販売したが、今年度は品薄状態が収まったことでマスク等の売上が減り、弁当、パン、飲料等の売上が増えたものの減収となった。食堂においては、弘前大学が行った学生を支援する事業の他、医学部医学科独自の企画による医学科学生に対する弁当の提供や、同学生に対する当会食堂限定で使える利用券の利用により増収となり、ドトールコーヒーショップにおいても、同学生に対する当会ドトールコーヒーショップ限定で使える利用券の利用により増収となった。薬局においては、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の対応として長期投与の処方が増えたこと等で処方箋枚数は減ったが、特に金額の高い薬の処方が増え増収となった。その結果、経常収益合計では昨年度に比べ約5.0%、約6,035万円増の約12億7,296万円となった。

経常費用では、助成関係については、一般助成費が、昨年度中止となった弘前大学学祭がウェブで開催され約38万円の増、研究奨励助成費が約22万円の減、患者支援費が約4万円の減となった。人件費については、昨年度と同様に6月期及び12月期賞与の減額（90%支給）を実施したこと、退職者の補充を最小限に抑えたこと等で定期昇給等による増の要因はあるものの合計では減少した。仕入費については、売上に連動してローソンは減少し、食堂、薬局及びドトールコーヒーショップは増加した。その結果、経常費用合計では昨年度に比べ約4.6%、約5,773万円増の約13億551万円となり、当期経常増減額は約3,255万円の費用超過となった。なお、経常外費用として、令和3年4月の診療報酬改定により薬価が引下げられたことに伴う棚

卸資産評価損の計上並びに法人税、住民税及び事業税の合計で約169万円となり、最終的には当期一般正味財産増減額は約3,424万円の減少となった。

以上のように、本会の運営は非常に厳しい状況となったが、本年度もこれまでと同様に公益目的の支出計画の達成のため、実施事業である「医学に関する研究の奨励及び助成事業」、「患者支援事業」、「学生に対する福利厚生事業」及び「患者等のための食堂事業」を行った。本年度の主な事業内容は、次のとおりである。

【実施事業】

- | | |
|---------------------------|--------------|
| 1. 医学に関する研究の奨励及び助成事業 | 9,100,000円 |
| ① 弘前大学における医学に関する研究助成 | (2,950,000円) |
| 医学研究科臨床中央研究室への研究助成 | |
| 医学研究科附属動物実験施設への研究助成 | |
| 附属病院の診療技術向上に対する助成 | |
| 附属病院検査部に対する研究助成 | |
| ② 医学研究科各講座学術集会の主催に対する助成 | (0円) |
| ③ その他、医学振興・医療技術の向上へ寄与する助成 | (6,150,000円) |
| 附属病院の管理運営に対する助成 | |
| 附属病院看護部に対する研究助成 | |
| 学生用図書購入に対する助成 | |
| 2. 患者支援事業 | 63,360円 |
| 附属病院内に観葉植物を配置 | |
| 3. 学生に対する福利厚生事業 | 378,400円 |
| 4. 患者等のための食堂事業 | |

食堂においては、前述のとおり、弘前大学が行った学生を支援する事業の他、医学部医学科独自の企画で学生へのテイクアウト用弁当の提供や、同学生に対する当会食堂限定で使える利用券の企画に構想段階から参画し、学生の支援に努めたことで売上アップに繋がった。また、店内飲食されるお客様に対する新型コロナウイルス感染症の感染防止のためアクリル板の数を増やし感染防止対策の強化を図った。

【病院内及び周辺における患者等に対する小売・サービス業】

- イ) ローソンにおいては、売上アップや集客アップに向け様々な企画を独自に提案し、ローソン本部の了承を得て行った。例えば、青森山田高校の生徒が考案しローソンと共同開発した「だけきみパン」については、注文書を配布したこと、ローソンで人気の「ブランパン」については、ローソン本部に廃棄ロス分の補填を了承してもらい、ボリューム陳列して販売したこと等で売上アップや集客アップに繋がった。また、コロナ感染症拡大により経済的に影響を受けている学生の支援を図るとともに、地域の経済活性化を目的として販売された「大学発地域振興券」が利用できる参加店となり学生の利用が増えるよう、より一層商品の充実を図った。
 - ロ) 薬局においては、地域支援体制加算の要件の1つである後発医薬品の調剤割合50%以上について、製薬会社の行政処分や西日本物流センターの火災等で供給不足が続いているが、仕入業者と連携して薬品を確保し、処方することで算定要件を満たし、加算できる体制を維持した。
 - ハ) ドトールコーヒーショップにおいては、令和3年8月から、コロナ禍において医学部附属病院で業務に従事している弘前大学の職員に対し、ドトールコーヒー本部の協力を得て弘仁会が独自に一部の商品を除き10%引きで商品を提供する企画を実施し、利用者数の増に努めた。また、ローソンと同様に「大学発地域振興券」が利用できる参加店となり学生の利用の便宜を図った。
- 二) 外商においては、病院からの要望に応え、外来診療棟2階及び多目的棟1階に飲料自動販売機を増設した。